

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001149		
法人名	(有) エイト サービス		
事業所名	グループホーム 豊中オアシス (1)		
所在地	大阪府豊中市南桜塚4丁目11-3		
自己評価作成日	平成23年4月2日	評価結果市町村受理日	平成23年6月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

その人がその人らしく、楽しく、安全、安心、快適に過ごせる施設、尊厳を守りやさしい心、いたわりの気持ちを持って介護に努める。住み慣れた地域で地域との交流を持ちながら生活の場として過ごせる施設である事を理念として入居者様の笑顔に支えられスケジュールにしばられずローライフをこころがけております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.osaka-fine-kohyo-">http://www.osaka-fine-kohyo-</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和BL4F		
訪問調査日	平成23年4月25日		

平成13年に設立された施設は、大阪府下に8ヶ所のグループホーム、1ヶ所の有料老人ホームを運営する法人により、豊中市では第1号のグループホームとして立ち上げられた。法人の理念と共に、「1、明るく、楽しい、家庭的な環境 2、安心、快適、尊厳のある暮らし 3、利用者に応じた自立支援 4、家族と共に地域との関わりを大切に」との、事業所独自の理念を掲げ支援している。周囲は閑静な住宅地の中で、地域に溶け込んだ馴染みのある、安らぎの環境の中にある。建物は2階建てで、庭には四季折々の草花が咲き明るく、楽しい、家庭的な雰囲気がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	明るく楽しい家庭的環境、安心、快適、尊厳の確立、利用者に応じた自立支援、家族と共に地域との関わり、の理念のもと常に心がけて実践しています。	理念の主体である、利用者本位、地域共生を家族と共に共有し、日々のケアに結びついた支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春、秋のお祭り、夏の盆踊りや老人会の行事に参加、日常の散歩、買い物、喫茶店でのくつろぎ、公園での交流など地域との交流に努めている。	地域の緑地地区の福祉会が主体の住吉神社のお祭りや、夏の盆踊り、老人会の行事への参加と地域に向くだけでなく、施設での夏祭りには近隣の方々にもお知らせ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での夏祭りを近隣の方々にも開放して交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度日常生活の状況の報告、意見交換をする事で、役にたつ情報を得ることによってサービスの向上に取り入れている。	運営推進会議は校区福祉委員、介護相談員、市の高齢福祉課、地区会長、民生委員、地域包括委員、利用者、家族の出席のもと2ヶ月に1度第4水曜日に開催され、近況報告、保険衛生対策などが話し合われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を通し市担当者の出席のもと報告、相談など常に取り組んでいる。	市の高齢介護課の担当者とは生活保護受給者の支援の相談などで必要に応じて連携をとり合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要が生じた時点で家族、医師相談、説明のもと、短時間のみの場合もあるが、ほとんど無い状況にて介護に取り組んでいる。	玄関には鍵をかけているが1階・2階のフロア間には自由に行き来している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に常に指導行い当施設においては一切、一度も無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は未研修であるが管理者は研修にて理解、把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず執り行い入居者(家族)全員が持つておられる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、介護相談員の来所時などの意見交換を取り入れ反映させている。利用者、家族の意見、要望を聞く事を常に心がけている。	面会時には、家族の方からの声に耳を傾け意見や要望は介護計画の見直しなどに反映させている。	家族に対しては親密に連絡をとり合っているが、家族会がない事もあり、定期的にお便りを発送させる仕組みづくりが望まれる。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日のふりかえり日誌にて意見や提案、勤務状況を報告する機会あり。	管理者は職員の意見や提案を聞く方法として、独自に「毎日の振り返りノート」から速やかに情報をキャッチして日々の介護に活かす体制が作られている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員からの要望聞き、取り組む姿勢がある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に研修、講演会への参加、勉強会、意見交換など実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、事業所連絡会などに参加、意見取り入れサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活に馴染んで頂く事を第一に不安を取り除く事と御本人に必要なサービスの確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望する介護、施設での生活の要望に添える様受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学をして頂き必ず三者面談を行い不安、困り事、希望など聞き取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護、制止しない介護を心がけ本人の出来る事は協働しながら支援行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとりあい、外出、外食されたり家族様の協力のもと、楽しい時間が持てる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問、電話、外出など制限なく自由に取り入れ今迄の生活を出来るだけ継続出来る様支援している。	今までの生活が継続できる支援として友人・知人との電話での会話を楽しんだり、家族と共に思い出の場所への外出の機会などがある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の度合がさまざまでもともむつかしいが、スタッフが間に入ったりして利用者同志の親交に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立支援に改善された方への訪問や問い合わせなど時々している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や不満に耳をかたむけ出来る限り意向にそう様努め笑顔になる行動や表情を観察し、ケアプランの作成のもと支援する。	一人ひとりの違いを大切にして、知り得た情報を職員間で共有し、できる限り本人の意向に沿うように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを参考にしながら家族、友人に生活歴や人となりなど聞かせてもらって情報の収集につとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、心理の状態、状況に合わせてその人に合った一日をその都度把握しながらの支援。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の情報の共有、報告を密にし、変更必要時サービス担当者会議を開き家族様にも参加して頂き本人に添った介護計画を作成している。	介護計画は必要に応じての見直しはもちろん、3ヶ月に1度はサービス担当者会議を開き家族の方にも参加を呼びかけ、本人にそった介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記載、申し送り、ミーティングを常時行い情報の共有、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パーソンセンタードケアを中心にニーズに合ったサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診による受診と家族様協力のもと定期受診や専門受診を取り入れている。	今までのかかりつけ医には家族の協力の元通院してもらい、週1回事業所の協力医の内科、精神科の定期往診がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1週間の体調、状態の変化など1人1人の状態を報告、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供、病室への訪問での状態の把握、退院時は診療情報提供書、看護サマリーのもとカンファレス行っており取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族との話し合いを必ず行っています。施設での対処には限界のある事も説明し了解を得て支援行っている。	入居時に利用者・家族に重度化に伴う医療体制の説明は行い、了解を得てはいるが文書化にはしていない。	本人・家族を交えての話し合いを持ち重度化した場合の思いは共有しているが、文書化しておくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署における救急、救命訓練、講習会に職員全員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、避難など、防災訓練は定期的に行っている。	消防署の協力体制のもと、年2回の避難・防災訓練が行われている。又事業所には災害対策担当者が置かれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳にもつながる言葉使いには厳しく全職員に指導行っている。	個々の意思を尊重するべく、言葉かけや対応に注意し、人格や誇りを損ねることのないよう全職員が意識しながら対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと要求を聞くゆとりを持つよう心がけ本人の決定のもと、取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態など心身状態を考え傾聴などしながら無理のないよう対応、努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容を定期的に取り入れ、身づくろいや季節感のあるおしゃれの支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の料理を利用者と共につくり、それを職員も一緒に食し、準備も食事の後片付けなど協働しながらの支援をしている。外での食事会も取り入れている。	週2回、近くのスーパーへ買い物に出かけ季節の食材で利用者と職員と一緒に調理し配膳、片付けなど職員と協働しながらの支援が行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、食事の形体、水分量など1人1人への対応を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入れ歯洗浄、うがいによる口腔ケアを実施、うがい困難な方には口腔内清拭の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外の方は日中は必ずトイレ誘導し、オムツの必要な方は夜間のみオムツ対応にして日中はリハビリパンツ使用にて支援を行っている。	日中は排泄チェック表により、トイレ誘導し自立を支援している。日中はリハビリパンツのみで夜間には必要な利用者のみオムツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の服用は極力抑え飲み物、食べ物、マッサージなど取り入れて支援行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し強制はせずタイミングを見きわめて心地よい入浴に努めている。	体調を観ながら、基本的に週2回の午後に2人体制で、入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を把握し、午睡の時間を調整したり、居室でのおしゃべりなどおだやかな気分で入眠や休息を持って貰えるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋の把握、症状の変化の把握、医師への報告、相談、指示など支援行う。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には曜日を決めてお手伝いなど達成感をもちながら、レクリエーションも一人一人違う事を行っている支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえる散歩、春、秋の遠足(バス)本人の行きたい所への外出介助などの支援を行っている。	年2回の遠足には家族と共に外出を楽しむことができる、又近くの公園やスーパーでの買物の支援もあり季節感や外気に触れる機会を持つようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物で自分の買った品物のレジでの支払いなどへの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は出せる方がいないので電話は本人が希望する時は必ず支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の整備、作った作品の展示など明るく楽しい施設づくりに努めている。	玄関先には季節の草花や植木が植えられ食堂・居間には利用者の作品が飾り付けられて居心地よく楽しく過ごせる工夫がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下の長椅子やソファに座っておしゃべりなど常にされている。 庭には季節の花を皆で植えて楽しみ、廊下には行事に参加した写真を貼ったり作品を貼ったり楽しい施設づくりを工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室にて思い思いのお部屋づくりをされています。使い慣れたたんす、仏壇、家族写真、ぬいぐるみ、テレビ、いすなどがあります。	2階の個室には比較的自立された利用者の居室があり一人ひとりが思い出の品々や好みのものが持ち込まれている。居室には台所設備があり便利に使うことも可能な状態になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室の目印の工夫、トイレや廊下の手すり、浴室の目印など生活しやすい様工夫取り入れて支援行っている。		